

『ここまで明らかになった！尿酸代謝ワールドと高尿酸血症の病態解明 ～診療と医学の最前線～』

発行日 : 2015年6月18日
監修 : 松澤佑次(まつざわ ゆうじ)
所属 : 一般財団法人住友病院院長
編集 : 下村伊一郎(しもむら いいちろう)
所属 : 大阪大学大学院医学系研究科
内分泌・代謝内科学教授
編集 : 益崎裕章(ますざき ひろあき)
所属 : 琉球大学大学院医学研究科
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座
(第二内科)教授



ご略歴(下村先生)

1989年 大阪大学医学部医学科卒業、大阪大学第2内科学入局。1993年 大阪大学大学院医学博士課程修了(内科学)後、市立豊中病院内科医員。1995年 米国テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンターへ留学。2001年 大阪大学大学院医学系研究科分子制御内科学(第2内科学)特任研究員、2002年 同院生命機能研究科・医学系研究科病態医科学教授、2004年 同院医学系研究科分子制御内科学(第2内科学)教授を経て、2005年より現職。2012年より同院栄養マネジメント部長兼任。

ご略歴(益崎先生)

1989年 京都大学医学部医学科卒業後、京都大学医学部付属病院研修医。1990年 高槻赤十字病院(大阪府)内科、1992年 京都大学大学院医学研究科博士課程入学(分子医学専攻)、1996年 医学博士取得。1999年 京都大学医学部内分泌内科助手、2000年には米国ハーバード大学へ留学(招聘博士研究員・客員助教授)、2003年 京都大学内分泌代謝内科助手(復職)、2008年 同講師を経て、2009年より現職。

本書発刊に際し、編集の先生方よりコメントを頂戴しました。

今回、本書では、学問の最新を追及しながら、高尿酸血症に興味をもつ医師、栄養士、看護師、保健師、学生、誰にでも取っ付きやすく見やすく、そしてわかりやすいように執筆していただいた。

本書で多くの先生方が語られるように、尿酸の歴史は新しい。医学的には、高尿酸血症は痛風の前状態としての認識のみがなされてきて、それ自体の病態学的意義が深く顧みられることはほとんどなかった。また肥満をはじめとさまざまな代謝異常の随伴症候としては認識されていたが、病態学的に上流因子として関与するという考え方はきわめて希薄であった。しかし、尿酸トランスポーターの発見や新たな選択的XOR阻害薬の開発等、多くの先人たちの努力によって、“高尿酸血症”という病因学・病態学にわたる新しい医学の歴史が始まった。

これから必要となるのは、“高尿酸血症”治療により本当にマスとして人が救われていくのか否かである。そのことを明らかにするためのいくつかの研究が進みつつあるが、まずはしっかり最新の知見・見解を勉強し、自分たちがお会いする患者さんに中長期的な視点で“高尿酸血症”に対しての最良の治療を考えていくことが大切だと思う。本書が、皆様の力を通してそのような患者さんたちに確かに役立たれることを願っている。

[詳細はこちら ▶](#)